



「スタグフレーション」って何？

◆景気後退と物価上昇が同時進行

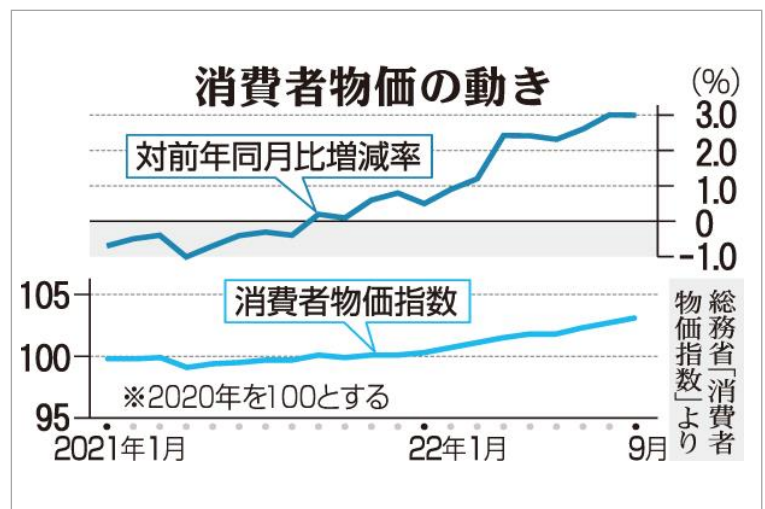
Q－最近、値上げの話と一緒にスタグフレーションという言葉を目にします。

A－景気停滞を意味する「スタグネーション」と物価上昇を表す「インフレーション」を組み合わせた経済用語で、景気が停滞しているのに物価が上昇するという状態を指しています。

通常のインフレでは、継続的に物価が上昇します。景気の拡大により企業業績が上向き、給料が上がって物やサービスに対する需要が増えることで、お金の循環が良くなります。一方、景気停滞の場面ではこれとは逆のことが起こります。

Q－一体どうなるの。

A－スタグフレーションになると、経済が停滞して収入が増えない中、生活必需品の物価が上昇するので、家計の状況は通常の景気停滞の場合よりもさらに厳しいものになります。生活防衛から家計の消費意欲は弱まり、企業側では物が売れなくなって景気がさらに落ち込むこととなります。「最悪の経済状態」と言う人もいます。



Q－なぜ、経済が停滞して需要が増えないのに物価が上がるの。

A－物価上昇は需要の増加以外にも原油、原材料、食糧など産業活動や生活に必要な物資の値上がりや原因という場合があります。このような物価上昇は、多くの資源を輸入に頼る日本では海外での供給制限や供給不足が原因となる場合が多く、国の政策を通じたコントロールが難しいという側面を持っています。

Q－最近よく聞くのはどうして。

A－新型コロナウイルスの影響による世界的な供給網の混乱がまだ収まらず、供給不足状態から原材料、部品、輸送費などの価格が上昇しています。加えて、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあって原油や農産物、飼料などの価格高騰も続いています。さらに、急激な円安により燃料や電気代、食品など企業活動や日常生活に不可欠な分野で物価上昇が進んでいます。日本経済がコロナの影響から回復しておらず、スタグフレーションへの警戒感が強まっています。

(北陸経済研究所の倉嶋英二が担当しました。)